

= Match Report =

平成30年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技県予選会

準決勝

2018年 6月 17日 (日)

10:30 kick off 会場(栃木県グリーンスタジアム)

矢板中央

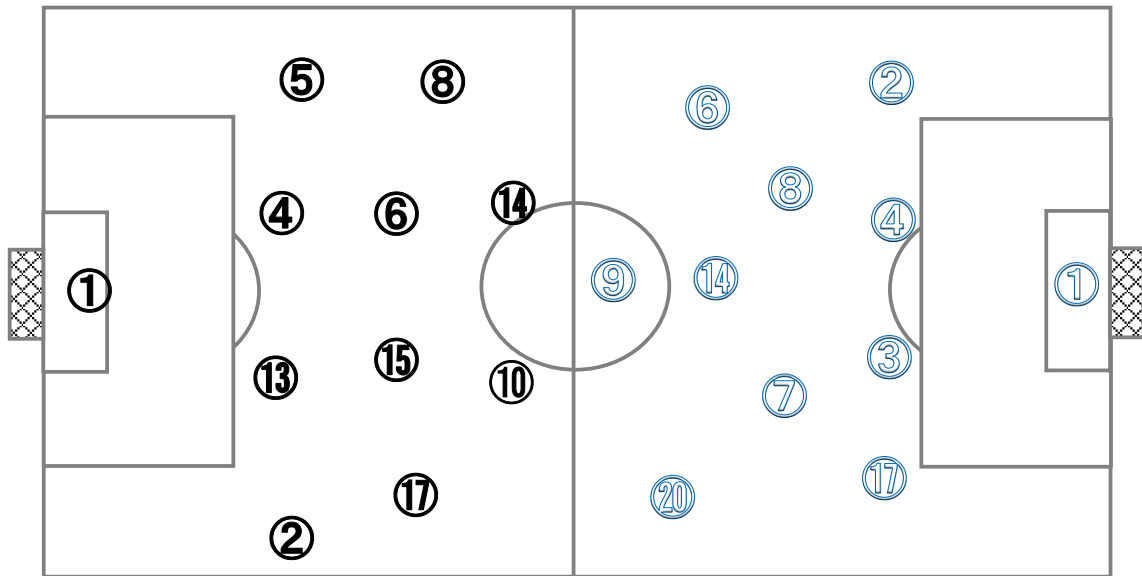
vs

文星芸術大学附属

6 - 0
3 - 0
-
-
PK

基本システム 1 - 4 - 4 - 2

基本システム 1 - 4 - 5 - 1



【Match Report】

準決勝第1試合はシード矢板中央高校とノーシードから勝ち上がった文星芸大附属高校の試合となった。曇りで乾燥したピッチコンディションでサッカー日和の試合となった。文星のキックオフで試合開始した。矢板中央は1-4-4-2のシステム、文星は1-4-5-1でスタートし、立ち上がりはお互いにボールへのプレッシャーが激しく、相手にチャンスを作り出させない展開が続いた。その中でも矢板中央はFW⑭望月をターゲットにしてロングパスからFW⑩飯島と文星の守備が薄いエリアを突いていく。矢板中央前半11分中央から右サイドMF⑪伊藤フリーで受けてそのままゴールで先制。文星も前線にボールを供給するが矢板中央のDF陣に阻まれる。お互い決め手がないまま膠着状態が続く。矢板中央が長短のパスを織り交ぜながらリズムを掴み始める。前半35分矢板中央は直接FKからゴール前に放り込み、混戦の中から冷静にMF⑪が流し込んで2点目。矢板中央前半38分CKから混戦になった所をDF④白井が押し込んで3点目を決め、前半を終えた。

後半、矢板中央は得点力の高いMF⑨板橋を投入、対する文星もエースFW⑩宮田を投入し、お互い攻撃力の高い選手を入れ、闘う姿勢を更に強めてきた。矢板中央は前半と同様に長短のパスからリズム作りながら文星ゴールに迫る。文星はFW⑨井上とFW⑩宮田を中心にボールを集めようとするが、グラウンダーのパスは矢板中央の早い寄せで防がれ、ハイボールも堅いDFに弾き返されていい形が作れない。矢板中央後半9分DF②後藤がクロスを上げたらラッキーにもゴールに吸い込まれ4点目。矢板中央は矢板中央後半28分左サイドからクロスをもつMF⑦山下が頭で押し込み5点目。矢板中央後半30分FW⑪大塚がエリア内に侵入し、絶妙なパスからDF②後藤が決め6点目。終盤では文星も長短のパスが繋がりに少しずつリズムが出てきてFW⑨井上がチャンスを作り、体を張りながらFKをもらいセットプレーから矢板中央ゴールに迫るが得点は奪えなかった。矢板中央が終始押した状態で試合が終了した。

さすがは現時点でプリンス首位のゲーム展開であった。ここまで無失点だった文星から6点を取った矢板中央を誉めるべきという試合内容だった。決勝戦でも矢板中央の強さを見せて欲しい。敗れた文星も最後まで自分たちのスタイルを貫き、今後に期待を感じさせるチームであった。

記載責任者 所属(宇都宮南高校) 氏名(手塚 直也)